東京第4隊機関誌
第46号
月刊 No.46
October 13th 1956

3MILE

天高く、馬肥ゆる秋

天高く、馬肥ゆるの候とはいみじくもいったり。まことに気持のよい時節となった。蒸みさって、あくまでも青い空、野山へのなつかしい思い出が胸の内で躍動する。大いに出かけるがよろしい。今頃から十一月はじめ頃にかけて、山はとてもすばらしい美しさを現わす。海などのときもおだやかな美しさである。

おおいかぶさる紅葉の枝をはらい、すすきをほ乱かりて歩む。夕ぐれのひんやりした空気をすいながら歩いてゆくと、ほぜ、農家では夕げの仕度がきこえる。そのささきには、まっかにうれた柿がいくつもいくつもぶらさがっているだろう。あたりがうすぐらくなって来るにはあかりがともる。夕ぐれの田舎道で、子供たちがなわとびにかくれんぼにかけまわっている。なんともいえぬーなつかしい思いがよみがえってくる。

さあ、スカウト諸君、計画はたてましたか。秋の野山の味を、そして夕ぐれの田舎道のたのしさを、まんきつして来たまえ。そしてつりくめうとおく、余りたべすぎぬように。

スカウトよ！おくれをとるな。

君は今いくつだい？ え、十八？ で今何級、第何班？ ううこまだ一級だよ。これではだめ。いくらなんでも、もう十八なのに一級とは。彼はもう、スカウトとして、日本代表として外国へ行くことはむずかしい。なぜならば、大体において、外国へ行くスカウトは年令的に制限される。又、ジャンボリーなどでもスカウトの参加資格は十八才未満のことが多い。

その次は級である。今の技能章制度は確立され、全国に、もちろん、ネニスカウトがうようよしている。

それなのに、今、四隊のスカウトには、第スカウトも年スカウトもいない。かってはいたが皆、年をとってしまったし、シー・スカウトへ行った。そこで一級スカウトがせいぜい大人とは、何たることだ。

アメリカのスカウトなどでは、十三、十四でネニスカウト（もっともアメリカでは、イーグルスカウトというが）になるものが多い。そして日本のスカウトには、大学受験という大きな仕事があるため、そこでがっくりとくる。

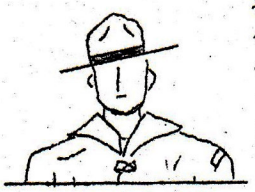
であるからだ。余計、中学三年より高校一年位の間に、ネニ位になる必要がある。実際にやろうと思えば出来ることである。だが私は、進級ばかりにあくせくとせず、というのではない。この多感な四隊から、一人位日本代表に会ってほしいとつとめる。

ムシのいきもの

スカウトはスマートネスであらねばならない、とよくいわれます。そうです。スカウトはスマートです。

諸君もよく見かけることがあるでしょう。ユニフォームに黒長ズボンそしてハットをかぶり運動靴をはいたスカウトを。私は、あのようなスカウトを見ると嬉しくなります。あれは、スマートネスでない、見本のよい例だと思います。

さて皆さん・スカウトの世界には流行(ファション)と云うもののあることを御存知ですか？



遠い昔頃までは、B-Pにもどれ、のかけ声と共に英口スタイルが大いに流行し、其の後にきたのが皆もかぶっている、ベレースタイル。これもずいぶん流行し猫もしゃくしもベレー帽。

此のベレーとゾう帽子、似合う人にはとてもその人をスマートな感じにするものですが、お情いなしにかぶると、これほどみっともないものもないと云うむずかしい帽子です。

さて、ベレー時代、今も続いていますが近頃、再び米国スタイルが出て来たのを見かけます。人にはそれぞれの好みというものがあり、一がいに、どれが良く、どれが悪いときめてしまうわけにはいきませんが、ここでそれぞれの流行の要点ともいうべきものを御紹介しましょう。

○英口スタイル

カチンとした、つばの平らなスカウトハット。半ズボンにはキチンと折目をつけて、ひざの下まで位、少々長くスネ。ハットはキング少しにかしめる。ハットは少し右目に傾けてかぶる。

○米口スタイル

アメリカのスカウトは現在では、次に同じ変化格好も長ズボンプリーツ。米陸軍の沢山の兵士のように長ズボンはキャッチ。英米程度の大なるのご存知ずのアメリカのスカウトはあるのも所に、野球帽をスカウトハットをかぶる所もあるのもあるようにかぶる。

もちろん、英口のスカウトも冬には長そでのシャツをきることもあるだろうし、米口のスカウトも夏には半そでのシャツに半ズボンをはいています。でも米口のスカウトは、近頃は、ハットをかぶらないようです。

諸君がユニフォームを着るときはいずれにしても、よく洗たくをし、のりをつけきちんとアイロンをかけたものをきるようにしましょう。

今年最後の野営計画

今年最後の野営の計画を、渡辺副長補がたてました。まだ、リーダー会議にもかけられていないので、はっきりしたことは不明ですが、場所は、日野台教会の地をお借りしようとゾう計画だそうです。日は十一月の三～四日が予定されています。

そのうちに、はっきりしたことがわかることでしょう。

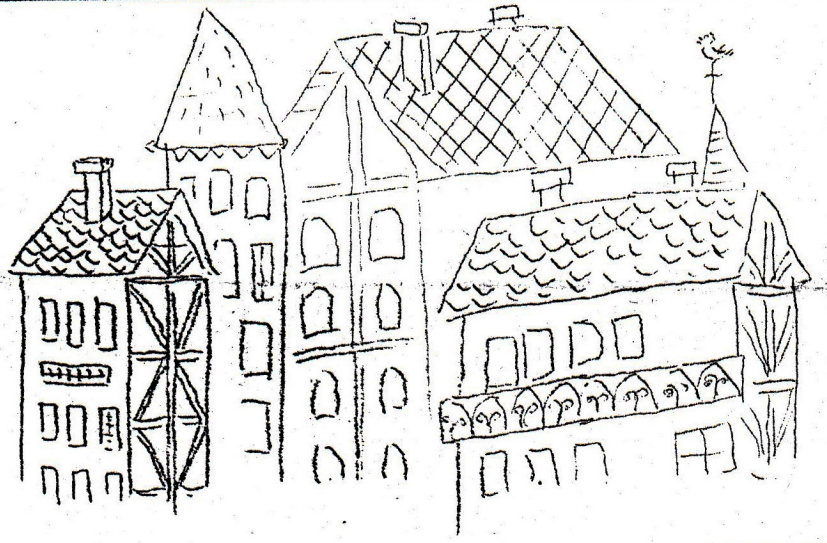
指導者と御両親を結ぶ欄(3)

はや秋も半ばを過ぎ紅葉の季節となりましたが皆様にはお変り御座いませんか。ジャンボリーも無事に終えソロソロ新しい年を迎えたわけで指導者達も気分を一新しております。

常日頃我々は御父兄の方々との連絡が十分にゆかぬことを残念におもっておりましたが、此のほど四人ほどの熱心な御父兄の方々にお集まりをねがい、今後毎月集会を行って父兄の側からもっと積極的に四隊のために努力しようということになりました。

今後はこの四人の方を中心としてしっかりとした隊母員会が作られてゆくことになると存じます。が他の御父兄の方達がこれに進んで協力してもっとメンバーがふえるように積極的になってくださらなければ、何の意味もないのでございます。

どうぞよろしくおねがいします。



無礼講

日本 海山 著

これをよむ人は、自分のことをかかれたからといってふんがいしたりしてはいけない（たとえ悪口であっても）又その人のために義憤をかんじてもいけない。なぜならばそれは作者が主観だからである。

第一回 道下君について

彼はいろいろな名で呼ばれている。

上班！上級班長！道下！ミッチー、ミッチャン、ツネオ、ちゃん、道下君、道下さん。ああこのていどだろう。上班、は諸君が一般に呼びなれている又ミッチーサンとよぶ人も中にはいるようであるが道下、ミッチーは指導者階級の人達、ツネオちゃんと云うのは近所のおばさん連、又は同輩君が彼をさそうときに使う。道下君とよぶのは彼の学友か、初級の人、大和さんのおばさんもそういう。道下サン、ばっわずと知れた事であろう。道下君（もっとも彼の学友は君をつけないのが多いが）と云うのを「さん」と云うのを比較してみると大体「さん」の方が多そうであるこれは自然現象であって、何ともしがたいことだ。

彼はガニマタである。彼は胴と足とくらべてみるといくぶんか足の方が短いように見える。それはガニマタのためかもしれない。作者はあえて彼の足が短いとは云わない。彼のガニマタに付いて色々と研究した結果彼は非常に甘ったれでお父様を馬にして遊ぶのが好きだったらしい。彼が近

眼であるのは緒君も即永例だろうが、それから考えても彼は馬にえんのあることがわかる。なぜなら緒君は競馬の予想やと云うのを見たことがあるだろう、途中は目の前5くらい位の所で物を書く（それは自分の予想を他の業者にもれないようにするためだ）彼はヨリ目がちょいだろう、ひまなときにやらしてごらんなさい。

又彼は、非常なスタイリストで（スカシヤ）ある。ジャンボリーにいった緒君はよく即永例のことと思うがうみ水を使約してまで顔を洗う。家族であった時の彼の言葉がいる。こら。　曰「うぐいすのふんより良くきくんだぞ」（これがピンとこない人はだめ）

彼のスボン、ユニフォーム、等をよく注意してごらんなさい。ピーと折目が付いていなかったり、しわがきったりしていることは、まあないと。

飲水を倹約したり、折目に気をつけたりするのが、彼が「さん」と呼ばれる事の多い理由であろうか。

（裏面のギセイ者は誰か）　オタノシミ

スカウティング

唯一のスカウトのための本
我々の良き友、世界のスカウトをつなぐ本
定価 ¥50.-

良きリーダーとなるための良きガイドのスカウティングのスカウターをどうぞ

お知らせ

○班費

ソろソろ問題となっていた班費も、ソろソろ解決の見とうしがおつきました。

それにつきましては、今までとってソた隊費の外に班費として三十円に下げ、班費は今まで隊費にふくまれていた班費は、全部各班にかえされます。この制度は未だ実施されてソませんが近ソうちになるはずです。

○一周年記念

日本ではじめてのシー・スカウトが去年の十一月二十六日に発足してから以来、はや一年目のたんじょう日をむかえようとしてソます。

シー・スカウトでは、十一月二十三日の勤労かんしゃの日に、バースデイの祝会を行うことになりました。

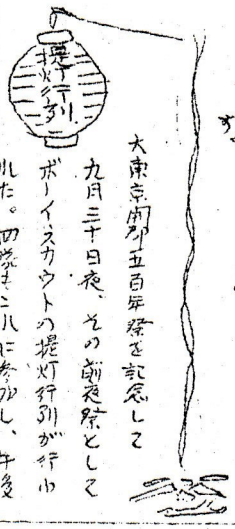
今までは、ほとんどのパーティーがタがたから夜にかけておこなわれましたが、この、パーティーは昼間行われる予定とのことです。

○隊委員

このたび、小林、大島、日下部、加藤の四人のおかあさまがたが積極的に隊のためにはたらいてくださることになりました。これで四隊の様子もずいぶんよくなるでしょう。他の人々も、ぜひお父さまやおかあさまがスカウトを手伝って下さるようお願いがソして下さソ。

○遠山さんの家

遠山さんとしてみんなにしたしまれてソるとうやまさんの家は今改築中です。時計やさんのお店もきれいになってます（ほんとうにすばらしいようです）でも、そのためにとうと思われます。今ごろの家にソるのです。うやまさんは



大東京開府五百年祭を記念して九月三十日夜、その前夜祭としてボーイスカウトの提灯行列が行われた。四隊もこれに参加し、午後六時三十分、日比谷公園から、東京駅、銀座を通ってスキヤ橋まで八キロ弱にわたって、ちょうちんの見物人が道にあふれ、人々をかんげきさせた。

編集後記

第四十六号のスマイルも無事に出すことが出来た。今回は原稿もすくなかった。

来年の二月には丁度四隊の十周年でスマイルも五十号にあたる。ひとつとても豪華なスマイルを出したいと考えてソる。そのためには、協力が一層必要となってくる。ぜひ協力がソしたい。

用紙は、現在ゆう便紙を使用してソるが、皆はどちらがよいと思ってソるだろうか。又、原稿は、今回は中（3ー4）と表と別にしてみた。ひとつえんりょのない批評をしてもらうソたい。

これからは大体におソて毎月第二週に出す予定である。

K・W

スマイル

スマイル第四十六号（非売品）
昭和三十年十月十三日発行
発行人　今田富士雄
編集　渡辺澄
印刷　スマイル編集部
発行所　港区赤坂霊南坂十四
日本ボーイスカウト東京第四隊

機関紙 46